

こころの便り

第256号

令和3年7月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話 079 1175512



新宮運送ホームページ

見据えて

便利な時代になるほどに忘れ去られていくことがたくさん出てくるようになりました。例えば、令和という元号をとってみても、年号の表示は西暦でいいんじゃないかという議論はいつの時代にもあります。西暦は知っているけれど、日本の皇紀というものを知る人は少ないです。

今年、皇紀二千六百八十一年です。これは、日本の歴史の原点ともいえる初代神武天皇の即位を紀元としているのです。ちなみに、西暦はキリストの生誕が紀元となっています。

オリンピックと同じかどうかは分かりませんが、四年に一度閏年という年に2月29日が入ります。そこに至るまでには星と月を見ながらの原住民の知恵と言える太陰暦があり、ローマ帝国時代にユリウス・カエサルがエジプトからローマに連れ帰った学者たちに作らせたユリウス暦、その後、千六百年を経て現在のグレゴリオ暦となったそうです。簡単に言えば、ローマという国を拡大したユリウス・カエサルが国の行事を毎年同じ時期に行なうためにとカレンダーを分かりやすくしたということです。日本でも旧暦が明治五年に新暦（グレゴリオ暦）となりました。

こうして暦を見ていくだけでも、時代と共に変化を重ねて本来の姿は見えにくくなってしまいます。昔は良かったとこだわり続けて、携帯電話も持たない生活では近い将来、暮らしてくことす

らできなくなります。変えていかねばならないことは、しっかりとアンテナを揚げながら取り組んでいく代わりには忘れてはならないことがあります。それは、始まりとなった原点です。

仕事で言うならば、何のためにこの仕事についてたのか、この仕事を通じてどうしたいと考えていたのか、など自分に問いかけることはたくさんあるでしょう。仕事は「はたらく」ということで、「傍を楽にする」という意味があります。つまり、周りの人を喜ばせるということにもつながってきます。

新暦が採用された同じ時期に、株式会社という組織を広げていった渋澤栄一翁が教えたのは「論語と算盤」です。現実と理想をしっかりと考えよと私には伝わってきます。自分の都合を最優先ではダメで、みんなのためという目線を持ちながらも、自分が責任を持つという気概を持てる人でなくてはならない。そこには矛盾が存在して、理屈では説明のつかないことも出てくるはずだが、それを踏まえて歩んでいくことなのだと思います。

生きていくためには、何かの命を犠牲にしているのです。その命に感謝をして、自分の命を力の限り全うしなくては申し訳ないと思うのです。暑い夏を元気に乗り切ってくださいませ。

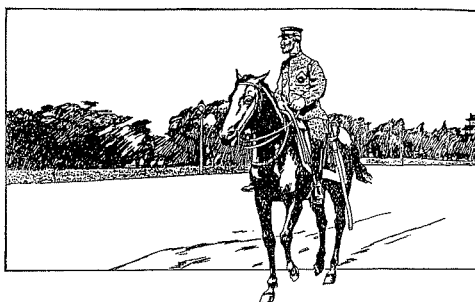
被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校修身書 卷六 兒童用

第十五課 清廉

明治三十七八年戦役に、陸軍大將乃木希典は第三軍司令官として出征しました。ある時、家族へ手紙を出さうとする時、巻紙がなくなつておきました。卓上には軍用の郵便紙がたくさんありましたが、大將はそれには手もふれず、そばにある参謀長に「紙の持合はせはないか。」と言つて、半紙をもらつて用を辨じました。



大將がりつばな手柄を立てて、明治三十九年、めでたく凱旋した時、ある人が家の寶としてある槍の身を大將におくつて祝ひますと、大將は「お志はありがたいが、この槍は受けるわけにはいかない。どうぞこれはあなたの家に保存して置いて下さい。」といふ手紙を添へて送り返しました。その人が後に大將に面會し、「國の爲にお盡しになつて、めでたく凱旋なされたのをお祝ひ申すつもりでさし上げましたのに、お受け下さらなかつたのは残念です。」と言ひますと、大將はたゞくり返しくり返しありがたうと禮をいふばかりなので、その人はいよいよ、大將の清廉なのに感心しました。その頃大將が學習院長であつたので、その人は更に元寇の役の繪を畫家にかかせて、「學生教育の資料にせめてこればかりはお納め下さい。」と言つておくりました。大將は喜んでそれを受けました。

明治四十二年、學習院の新しい校舎が出来上つた時、宮中から大將へ御下賜金がありました。大將は職員一同に「此度の御下賜金は皆さんの御苦勞を思召されての御事と思ひます。」と言つて、その金を皆かつをぶしの切手にかへ、一々にいねいに水引をかけて、職員に分ちました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていたただいております。